

令和7年度第4回(第38期)浜松市社会教育委員会会議録

- 1 開催日時 令和8年3月24日(火)午前10時から11時15分
- 2 開催場所 浜松市役所本館8階 802会議室
- 3 出席状況 委員 山本巖委員長、谷口卓副委員長、飛田ひさ子委員、
石田みゆき委員、鈴木英之委員、松井里華委員
内藤明子委員、澤根緑委員
三ヶ日支所 佐々木主任、三ヶ日まちづくり協議会吉田氏
事務局 嶋野文化振興担当部長、加藤生涯学習担当課長、
天野生涯学習推進グループ長、袴田指導主事、
鈴木主任、田辺主任、新林
欠席委員 久保賢治委員、李受眞委員
- 4 傍聴者 0人
- 5 議事内容 (1) 静岡県優良公民館表彰受賞館による取組事例発表(三ヶ日支所)
(2) 生涯学習推進大綱の改定について
(3) 令和8年度社会教育関係団体の補助金について
(4) 第38期社会教育委員会「重点協議テーマ」について
- 6 会議録作成者 創造都市・文化振興課生涯学習推進グループ
袴田指導主事、鈴木主任、新林
- 7 記録の方法 発言者の要点記録
録音の有無 無
- 8 会議記録

1 開会

2 委員長あいさつ

3 議事

(1) 静岡県優良公民館表彰受賞館による取組事例発表(三ヶ日支所)

■三ヶ日支所から、表彰発表「人づくりは地域づくり」取組事例「スタディ・ルーム」について説明

■意見・感想・質疑応答

飛田委員：

世の中全体として都市化が進み人間関係が希薄になっている中、地域で支え、アットホームな感じがするととてもよい取組である。私も地域で子供たちの居場所づくりに取り組んでいる。参加者の登録制の有無や連絡手段など伺いたい。また、開催頻度についても伺いたい。

発表者：

子どもは事前登録制にしており、保護者の緊急連絡先を把握している。登録後は期間中、自由に参加可能としている。開催は夏休み期間中の5日間であり、今後は回数の増加を検討している。

飛田委員：

継続的な取組の場合、ボランティアスタッフの確保が課題となる。長期休業中の短期間の取組のためボランティアにとっても参加しやすいところが良いと思う。子どもたちの来場手段について伺いたい。

発表者：

自転車、保護者の送迎、地域の循環バスなどを利用している。

石田委員：

三ヶ日まちづくり協議会の組織の概要や生涯学習事業への関わり、支所との関係等、その立ち位置について伺いたい。

発表者：

三ヶ日まちづくり協議会は三ヶ日支所と契約を締結し、講座等開催事業の運営を担っている。年間予算の範囲内で、スタディ・ルームやふれあいフェスタ、指定講座の実施に加え、施設管理も行っている。まちづくり協議会のスタッフには、まちづくり協議会から賃金が支払われており、その他のボランティアは無償で活動している。

石田委員：

生涯学習事業を地域に委託する取組は、市全体で展開可能か、それとも三ヶ日のみの仕組みなのか。

事務局：

市内で数か所実施している。地域ごとの特性により運営形態は異なる。今後、同様の取組が広がる可能性はある。

石田委員：

地域に根差したまちづくり協議会が主体で運営されている点は評価でき、他地域への展開を期待する。

澤根委員：

まちづくり協議会の位置付けについて、自治会連合会や地区コミュニティ協議会との関係を伺いたい。

事務局：

地区コミュニティ協議会の一部として位置付けられている。

澤根委員：

まちづくり協議会のメンバーは、自治会関係者等、地域の関係機関の方たちで構成されているのか。

発表者：

協議会の本体にはそういった関係機関の方が多く参加しているが、業務委託の運営については、専属のメンバーが中心となっている。

発表者：

三ヶ日まちづくり協議会内の施設管理部に所属し、委託事業専属職員として活動している。比較的独立した運営体制のもと、柔軟に事業を実施している。

澤根委員：

地域の方だからこそできることもある。こういう方の存在は地域の生涯学習推進にとって大きな力となる。

事務局：

地域によって、自治会関係者等が中心となる場合や、比較的若い世代、特に子育て世代が主体となる場合もあり、地域性が表れている。

全市的に同様の取組が広がることが理想ではあるが、地域ごとの特性があるのが現状である。

山本委員長：

独立性の高い運営体制が柔軟な事業実施につながっていると考える。

発表者：

組織の基本方針の範囲内で、現場の裁量により迅速かつ柔軟な対応が可能となっている。

澤根委員：

地区社会福祉協議会との関係について伺いたい。

発表者：

地区社会福祉協議会に関係する方でまちづくり協議会の構成員にもなっている方もいる。また地区社会福祉協議会と連携し事業を展開することもある。

澤根委員：

地域内の学校との連携について伺いたい。また講座やイベントの参加方法の工夫等はあるか。

発表者：

地域には小学校が4校、中学校が1校あり、講座やイベントチラシの配布を依頼するなど主に周知の面で連携している。申込はSNSを活用し、当日参加も可能とするなど、参加しやすい仕組みとしている。これにより、子どもやボランティアの参加ハードル低減につながり、若い方も参加率が上がっている。また、募集については二次元コードによるフォームを使うこともある。

内藤委員：

地域主体で柔軟に運営されている点が素晴らしいと思う。

谷口副委員長：

老人会や子供会が解散するなど、地域における交流機会が減少する中、本取組は世代間交流の場として有効であると感じた。私は小学校の学校運営協議会の委員をしているが、今年度初めて、夏休み期間中に中学生ボランティアが小学生に学習支援をする機会を設けた。協議会関係者は中学生にアドバイスして見守るような役目を担った。学習面以上に交流の意義を実感した。本事業も地域内の交流を実現しているものであり、こうした取組の意義は大きいものとする。

松井委員：

広報物の工夫が見られ、参加促進に大いに寄与している。

鈴木委員：

地域における継続的な人材育成や関係づくりにつながる取組であると感じた。実施年数について伺いたい。

発表者：

令和2年から開始し、4年目となる。

山本委員長：

運営のポイントとして挙げられた「ゆるやかなボランティア」の趣旨について伺いたい。

発表者：

過度な責任や負担により継続困難となることを防ぐため、誰でも気軽に参加できる仕組みとすることを目的としている。自由度を高めることで参加の裾野拡大を図っている。

(2) 生涯学習推進大綱の改定について

■事務局から、生涯学習推進大綱の改定と冊子完成について説明

■意見・感想・質疑応答

谷口副委員長：

冊子の配布方法について、データ配布か伺いたい。

事務局：

ホームページにデータを掲載するとともに、協働センター等において冊子を配架する予定である。

松井委員：

概要版資料の表記に誤りがあるため修正をお願いしたい。

事務局：

指摘箇所については修正する。

(3) 令和7年度社会教育関係団体補助金について

■事務局から令和8年度社会教育関係団体補助金について説明

■意見、質疑応答なし

山本委員長：

令和8年度社会教育関係団体補助金について承認する。

(4) 第38期社会教育委員会「重点協議テーマ」について

■事務局から「中学生をはじめとした若者の学びを通じた地域人材の育成」について説明

■意見・感想、質疑応答

山本委員長：

部活動の地域移行に伴う今後の方向性について伺いたい。

谷口副委員長：

本年9月から土日の活動は地域へ展開し、平日は学校での部活動と聞いているがどうか。

事務局：

将来的には平日の活動も含め段階的な地域移行を検討しているが、直ちに全面移行するものではない。

山本委員長：

今後、部活動の地域展開により中学生の余暇の過ごし方に影響が出ると考えるがどうか。

事務局：

家庭の考え方に委ねられる部分も大きいですが、時間に余裕が生じる可能性がある。そのような状況を踏まえ、多様な学びや体験を通じた人材育成の機会を行政としてどのように展開するか検討していきたい。本委員会での議論内容は教育委員会へ共有する。なお、部活動に関する具体的な情報発信は学校・地域連携課が行う。

山本委員長：

本方向性により重点協議テーマを承認する。

4 報告事項

■事務局から、以下の内容について連絡

- ・令和7年度子供を育む地域活動団体県教育長表彰
- ・浜松市と大学との連携事業

5 嶋野文化振興担当部長より挨拶

6 閉会